

平成26年度 病害虫発生予報 第5号

平成26年8月22日
栃木県農業環境指導センター

○イチゴ炭疽病の発生に注意しましょう！

○大豆・野菜・花き類のハスモンヨトウ・オオタバコガの増加が懸念されます

予想期間 8月下旬～9月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 大豆 ベと病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率833%)。(+)
・ 向こう1か月の日照時間は少ない見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・ 被害茎葉は伝染源になるため、ほ場外に持ち出して処分し、多発したほ場では連作しない。
・ 開花期から子実肥大期に薬剤防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュースNo.11 \(大豆：べと病\)](#) をホームページに掲載中。

2 大豆 吸実性カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率69%)。(±)
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・ 開花期の15日後から、トレボン乳剤、スミチオン乳剤等を10日～14日間隔で散布する。なお、子実肥大中期(9月上中旬)の吸汁害は、減収および品質低下が大きいので9月も防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュースNo.13 \(大豆：吸実性カメムシ類\)](#) をホームページに掲載中。

3 大豆・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ フェロモントラップでの成虫誘殺数はやや多い。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
- (3) 対 策 ・ 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
・ ハスモンヨトウの幼虫は齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュースNo.12 \(大豆・野菜類・花き類：ハスモンヨトウ・オオタバコガ\)](#) をホームページに掲載中。

4 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率152%)。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・ 発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分する。また、潜在感染株を本ほ場に持ち込まないために、発病株周囲の株は使用しない。
・ 水滴の飛散等によって伝染するので、水の跳ね返りがないようなかん水を行う。また、茎葉のぬれ時間が長くないよう、かん水は晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
・ 症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にベルコート水和剤(育苗期(定植前))等を散布する。
・ 発病株が見られたら、速やかにサンリット水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュースNo.8 \(いちご：炭疽病\)](#)、[植物防疫ニュースNo.10 \(いちご：炭疽病・その他土壌病害\)](#) を当センターHPに掲載中。

5 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率117%)。(±)
・ 主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(+)
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・ 苗による本ほへの持ち込みを防ぐため、定植前に育苗床での防除を徹底する。

- ・発生が見られたら葉裏のハダニ類を洗い流すように気門封鎖剤を約5日間隔で複数回散布する。
 - ・気門封鎖剤を活用し、有効薬剤を温存する。
 - ・葉の痛みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布を避ける。
- (4) 備考 ・ [「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率138%、葉率68%)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・場内外の野良生えトマトや雑草は発生源となるため除去する。
・防虫ネットを展張し施設へのタバココナジラミの侵入を防止する。
・育苗期から定植期にベストガード粒剤などを施用するとともに、定期的に気門封鎖剤やアニキ乳剤などを散布する。
- (4) 備考 ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので注意する。
・ [「果菜類に発生したタバココナジラミの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

7 野菜類・花き類 タバコガ類

- (1) 発生予想 発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・8月第3半旬までのフェロモントラップへの誘殺数がやや多い。(+)
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・植物組織内部に食入すると薬剤防除が困難となるため、発生初期に防除する。
・浸透移行性の高い薬剤の使用も効果的である。
・施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
・被害部位はほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (4) 備考 ・果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察し、虫糞や食入孔を確認する。
・ [植物防疫ニュースNo.12 \(大豆・野菜類・花き類：ハスモンヨトウ・オオタバコガ\)](#)を当センターHPに掲載中。

8 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
水稲	穂いもち	－	やや少	なし	ハダニ類	平年並	やや多
	縞葉枯病	多	多		アザミウマ類	やや多	多
いちご	うどんこ病	やや少	やや少	きく	ハダニ類	平年並	やや多

○水稲の縞葉枯病の発生に注意しましょう

- ・発生地域が県全域に拡大しています。ほ場での後期発病(出すくみ)の発生状況を確認し、要防除水準(黄熟期発生株率10%)を超えるほ場が見られる地域では、次作の対策を検討しましょう。

○いちご本ぼへの病害虫持ち込みに注意しましょう

- ・病害虫を本ぼへ持ち込まないよう十分に注意し、健全株を定植しましょう。

○葉かび病抵抗性トマト品種を侵すトマト葉かび病菌レースの発生が確認されています

- ・県内で栽培されている抵抗性品種の多くは、確認された葉かび病菌レースに罹病性であるので抵抗性品種を栽培している場合でも本病の発生に注意する。
- ・ [「平成26年度病害虫発生予察特殊報第1号」](#)をホームページに掲載中。

1か月気象予報(予報期間8月16日から9月15日 8月14日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わるでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	20%	40%	40%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	40%	30%	30%

詳しくは [農業環境指導センター \(http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html\)](http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html) までお問い合わせください。病害虫情報発表のお知らせは「[農政部ツイッター\(@tochigi_nousei\)](#)」でも発信中です。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012